

「地域および施設で暮らす高齢者の看護における

支援のあり方に関する研究（老年看護学）」

研究代表者 千田 睦美（看護学部、准教授）

研究参加者 小嶋美沙子（看護学部、講師） 渡辺 幸枝（看護学部、講師）

鈴木 睦（看護学部、助手） 畠山 洋子（看護学部、非常勤助手）

<要旨>

本研究では、超高齢化が進む今後、病院への入院だけではなく、地域や施設で生活する高齢者の増加が予想されるため、高齢者への健康支援と、ケア提供者への支援の両方を検討することを目的に、以下の研究や事業を進めた。

1 研究の概要

超高齢化が進む今後、ますます、地域や施設で生活する高齢者の増加が予想される。そこで本研究は、高齢者が地域や施設で生活するための支援を、高齢者への支援と、ケア提供者への支援の両方から検討し、実践した。

2 研究の内容

1) 高齢者への支援

平成28年9月11日（日）、12日（月）に、県内に在住する地域住民を対象に、骨密度測定、加速度脈派および体力測定、健康相談を実施した。この事業は毎年開催しており、何年も継続して参加される方が多いものの、参加者からの誘いによって、新規に参加される方もいる。参加者は、2日間通して97名だった。参加者には、身長、体重、体脂肪率、血圧、加速度脈波の測定と体力測定を行い、対象者のニーズに合わせて、体力づくりや健康維持のための食事や運動、日常生活全般について、パンフレットを使用した健康相談・健康指導を行った。対象者へは、当日の測定結果をグラフ化し、評価も含め、レポートとして後日送付した。

2) ケア提供者への支援

平成29年2月8日（木）に、岩手県内の高齢者ケアに関わるケア提供者（主に看護職、介護職）を対象に、「看護職・介護職のための高齢者ケア研修会」と題して、研修会を実施し、その後、交流会を開催した。当日は67名と県内の様々な事業所から多くの参加者があり、様々な形で高齢者ケアに関わる介護職、看護職の参加であった。前半の研修会は、「認知症高齢者との一いまさら聞けない基本のハナシー」と題して、岩手県立宮古病院 認知症看護認定看護師に講演をしていただいた。認知症ケアについて、事例を用いながら分かりやすい内容であり、参加者からは、実践にすぐ活用できるといった研修内容への満足の声が多数寄せられた。後半の交流会では、困っていることや工夫していることなど、実践例を共有した。認知症ケアで困っていることについては、帰宅願望およ

び徘徊について、ケアの拒否について、不眠・不穏について、利用者への関わり方について、転倒について、利用者間の関係性について、家族との関係性について等が話題となった。また、認知症ケア実践例および工夫していることについては、自立支援、帰宅願望および徘徊への支援、ケアの拒否・対応、寄り添ったケア、日々のケアの工夫、環境整備や連携等が話題となった。

3 これまで得られた研究の成果

高齢者への支援については、継続して実践し、1年に一度ではあるものの、事業に来ていただき、自身の生活を振り返ることで、普段の生活への健康意識にも働きかけることができていると考える。

ケア提供者への支援については、以前の研修会で参加者から研修会ニーズを把握していたため、ニーズに合ったテーマを設定することができ、参加者の満足度につながったと考える。また、交流会を行うことにより、事業所外の他（多）職種ともつながりをもつきっかけになっていた。



写真：看護職・介護職のための高齢者ケア研修会

4 今後の具体的な展開

高齢者への支援は、今後も継続し、様々な側面から健康を支えていく予定である。また、ケア提供者への支援は、今後の研究会へのニーズ（他職種連携について、看取りについて、吸引について等）も明らかになったため、継続的なプログラムを視野に入れながら、研修を企画、検討する必要がある。